

## シンポジスト 松井一郎さん

脳卒中を発症したとき、私はリハビリをすれば元に戻ると信じていましたので、そんなに悲観はしていませんでした。しかし、いざリハビリを行ってみると、その効果はなかなかわかりませんでした。自分の調子の悪い時などはなんのためのリハビリかと疑問をもつ事もありました。退院は早くしたかったですが、リハビリが出来なくなることへの不安や通院でのリハビリも期限があり、それが終わったあとどうしてよいかわかりませんでした。加圧、鍼灸、水中歩行など手当たり次第にやってみましたが、それも不安解消にはなりませんでした。そういうときにセラピストは、「いい話相手」、「相談相手」になっていただけました。

そして、今感じることは、地域（社会）に復帰してもリハビリを続けていけるようなシステムが欲しいと思うことや、地域に簡単にリハビリというか、メンテナンスできるような出来る施設があればと思います。

もうひとつ思う事は、社会ではみんな支えられて生きているということです。支え合う繋がりが個人の「自立・自律」になります。社会では「やるべきこと」、「やらなければならないこと」があり、私はまだ必要とされていたことが社会に参加できるきっかけとなりました。これが身体のリハビリより心のリハビリになりました。街で見かける同じような障害者の市民と連携をもち、自分のことリハビリのことなど話せる機会があればと思います。